

すいばらえきしゅうへん

水原駅周辺地区

(新潟県阿賀野市)

- 計 画 期 間 平成 25 年度～平成 29 年度
- 面 積 168 h a
- 交付対象事業費 2,980 百万円
- 市人口 40,639 人

ポイント

都市的生活環境の向上による中心市街地の再生

目 標

- 市立病院を核とした賑わいの創出
- 防災・減災のまちづくり

指 標

市立病院や地域交流センターの利用者数を賑わい創出の指標とした。また、避難所整備をきっかけに防災意識の向上、防災活動の活性化を図ることから、防災訓練実施団体数を防災・減災のまちづくりの指標とした。

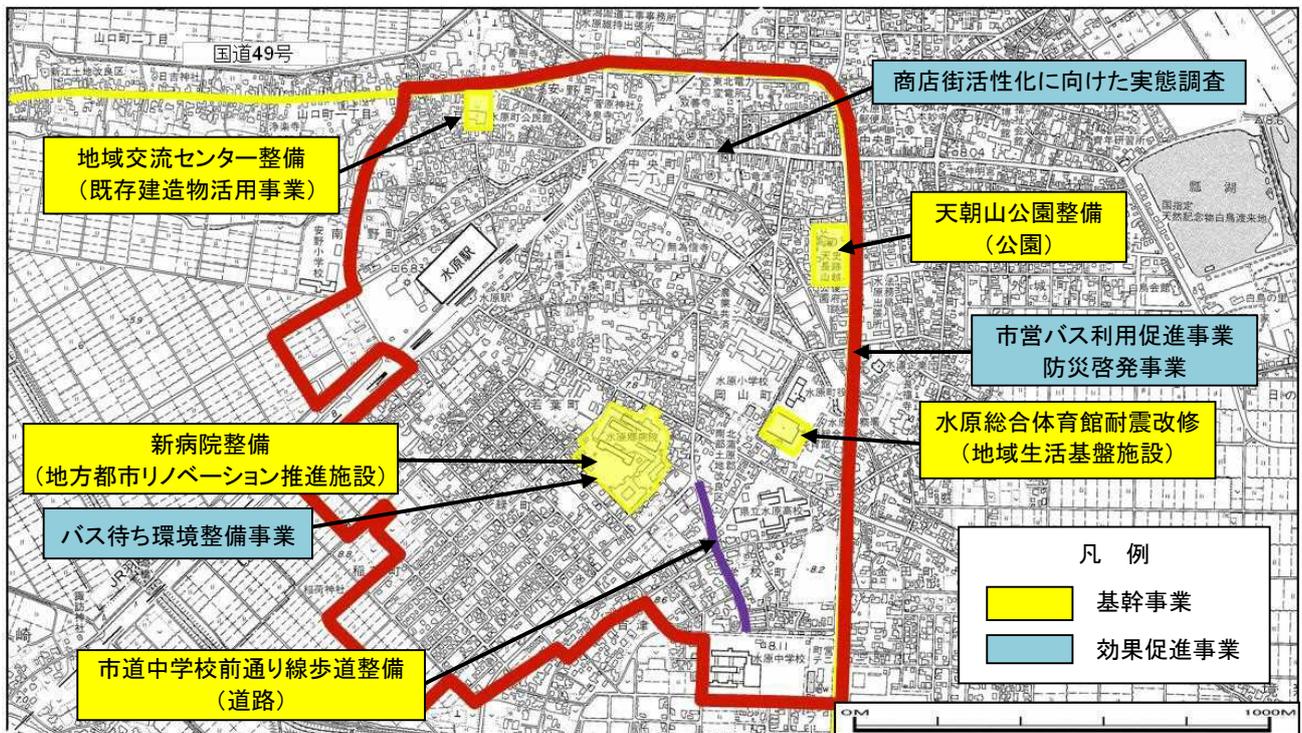
市立病院利用者数	90,081 人/年 (H23)	→	98,949 人/年 (H29)
地域交流センター利用者数	36,004 人/年 (H24)	→	40,437 人/年 (H29)
防災訓練実施団体数	3 団体/年 (H24)	→	4 団体/年 (H29)

地区概要

市立病院の建て替えを契機として、まちなかの回遊性を高め中心市街地を再生する。また、中心市街地にある避難所でもある老朽化した公共施設の改修を行い、既存ストックの有効活用を図りつつ、市民の安全・安心な生活を守るまちづくりを推進する。

事業内容

基幹事業 (2,980 百万円) → 新病院整備、地域交流センター整備、体育館耐震改修、歩道整備、公園整備



地区の現況と課題

市内外への郊外型商業施設や大規模商業施設の進出による水原駅周辺市街地の空洞化進行と、市立病院の機能低下による市外への患者流出により、水原駅周辺の中心市街地は衰退の一途をたどる状況であった。

これを解消するため、この市立病院を中心市街地の核となる施設として、将来にわたり継続的、安定的に良質な医療を提供できる病院を整備し、合わせて周辺に立地する公共施設の耐震性の確保による防災拠点の整備とそれらの公共施設を結ぶ道路の歩道整備を行うことで、まちなかの回遊性を向上させ中心市街地の再生を図った。

新病院整備後、初めて年間を通して稼働した平成 28 年度は前年度を 5.9%上回る外来患者数となり地域医療の中核として順調に推移している。

ただし、既存施設の耐震化に伴う防災拠点整備によって期待される防災意識の醸成（自主防災組織等の活動活性化）は、現状では数値に現れていないところであり、防災拠点として耐震化整備を実施した、地域交流センターの更なる活用促進を継続していく必要がある。

計画策定プロセス

都市計画マスタープラン

既存の市街地の中で土地の有効活用と都市基盤施設や公共施設の充実を図っていく「コンパクトな都市」への質的変換を行うこととしており、これを踏まえて本計画を策定した。

新病院基本計画の策定を踏まえて

市内唯一の公立病院として地域医療の中核を担うべき存在である水原郷病院は、設備面での老朽化や建物の狭隘さなどで、医療環境の変化や利用者の要望に応えることが難しくなっている状況から、市民に対し将来にわたって継続的、安定的に必要な医療を提供するため新病院整備の検討が行われた。

市街地の中心に病院が存在することで、高齢化の進んだ地域の住民に安心感を与えることや、新病院開院をきっかけとした外来患者や見舞客の増加、関連施設等の進出による市街地の賑わいの創出が見込まれることから、現在地に整備することとされ、これを踏まえて本計画を策定した。

整備前の市立病院周辺（平成 26 年度）



新病院外観（平成 29 年度）



新病院に乗り入れる市営バス（回遊性の向上）



整備後の水原公民館（市民交流拠点の確保）



中心商店街の現況